

中央・西部・東部図書館及び生涯学習ルーム「まなび南郷」内部評価結果
(施設所管課による評価)

【評価対象施設】中央・西部・東部図書館・生涯学習ルーム「まなび南郷」

【指定管理者名】株式会社 図書館流通センター

【評価対象年度】令和2年度

【施設所管課名】産業・文化部 生涯学習課

業務内容についての評価

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館により、前年度に比べて開館日数が減少（中央△15日、西部△23日、東部△14日）し、来館者数・貸出件数・貸出冊数も減少しました。ただ、1日当たりの貸出冊数（中央△10.6%、西部△8.8%、東部△5.2%）が大幅に減少していないことを勘案すると、図書館がコロナ禍における「ステイホーム」に寄与しており、開館時における図書館の努力の成果だと考えられます。

イベントに関しては、コロナ禍においても開催できる形態に変更して実施することができました。中央図書館ではInstagramを使った応募イベントやWebを活用した謎解きゲーム、西部図書館では施設内に設置した展示物に折り紙で来館者が作ったものを集めて一つの大きなものを作り上げる「自主参加型」の企画、東部図書館では工作セットの配布など、各館で工夫を凝らし、密を避けた安全なイベントを実施することができ、一部のイベントは新聞でも紹介していただきました。また、人気絵本作家を招いた読み聞かせ・ライブペインティングイベントを地域の事業所と共催で開催し、絵本作家と直接交流することで、子ども達がさらに本に興味・関心を持つことができる機会を設けることができました。

第5回となった「図書館を使った調べる学習コンクール」については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休校に伴うカリキュラムへの影響を鑑み、例年のように学校へ積極的な働きかけを行わなかったにも関わらず、202作品もの応募があり、コンクールが定着していることが伺えます。また、学校と連携しながら学校図書室の支援・整備にも貢献しています。放課後児童クラブへの貸出パックの開始も含め、大変評価しています。今後も引き続き実施をお願いします。

年度途中から導入した電子図書館について、通常の図書館利用者層とは異なる年代の方に多くご利用いただいています。今後、図書館を利用したことがない方にも電子図書館をご利用いただけるよう周知やイベント等の取り組みをお願いします。

まなび南郷については、ギャラリーにおいて、地域のサークルやボランティア団体等と連携した展示企画を実施することができました。一方、多目的室・ボランティアルームの利用率が40.1%であり、令和元年度と比較すると5.6%減少しています。新型コロナウイルス感染症拡大防止のための定員制限、利用自粛などが減少要因として挙げられますが、今後も安全に安心して生涯学習活動が行えるよう感染症対策を徹底しながら、新規利用団体の開拓も行い、安定した施設運営をお願いします。

利用者満足度について評価

図書館及びまなび南郷のアンケートでは、全施設で利用者から高い評価をいただいております、特に3図書館における「スタッフの対応」に関する満足度において、「満足」「やや満足」の合計数値が非常に高く（中央 88.4%、西部 93.8%、東部 95.2%）、各館共に昨年度より数値が高くなっています。これは、様々な研修に参加されるなど職員の資質向上に積極的に取り組まれた成果であると評価しています。まなび南郷については、令和元年度は施設利用の代表者の方にご回答いただきましたが、今年度はサークル活動や教室に通われる、スタッフと接する機会がない一般の利用者の方を含めたことで、令和元年度と傾向がやや異なる結果となりました（「スタッフの対応」92.7%→76.2%）。ただ、「施設・設備の使い易さ」等、施設そのものに関する満足度でも傾向が異なることから、代表者だけでなく一般利用者の方にも満足いただける施設運営をお願いします。

また、本の探しやすさ、蔵書・イベント・ホームページ内容等において、さらなる充実を求める意見もあることから、今後も利用者ニーズの的確な把握に努め、サービス向上につながる取り組みの実施をお願いします。

収支状況について評価

図書館は利用料収入がないため、イベントの際に手作りの記念品を用意する等、創意工夫で支出を抑えながら、事業内容の充実に取り組まれていたことを評価しています。

まなび南郷では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休館及び利用自粛により利用料収入が減少しましたが、引き続き感染症対策を十分に行いながら、サービス向上、利用率向上に向けた施設運営を期待します。

総合評価

図書館運営について、利用者の増加、サービス向上に向けて、3館で連携しながら、切磋琢磨しながら、各館で常に創意工夫されていることを大変評価しています。

コロナ禍で利用が減少したとはいえ、図書館は、本市における生涯学習施設の中でも年間約30万人もの人が利用する主要な施設のひとつです。また、緊急事態宣言中の臨時休館により、図書館が市民の暮らしに不可欠であることが再認識できました。これからは、調査研究・学習の拠点として資料の充実を図るとともに、利用される方のニーズや社会の要請に応えるための図書館サービスの充実が望まれています。今後も、専門的知識を活かした効果的な知識・情報の提供、図書館の付加価値を高めていけるような、さらに魅力あるサービスの提供に努めてください。そして、民間事業者のノウハウ及び豊富なネットワークを活用して、新たな来館者の増加に努めるとともに、新しい生活様式に基づき、図書館各館が年齢を問わず全ての市民の居場所として、誰もが気軽に利用でき、何度でも行きたくなる図書館となるような企画・運営を期待します。

また、年度途中から導入した電子図書館の運営に関しても、利用率向上に向け、魅力的なコンテンツの選定、積極的な周知活動をお願いします。

「まなび南郷」については、施設の魅力を積極的に発信し、営利利用も含めた新たな利用者の開拓等を行いながら、生涯学習推進、地域の交流の場となるような施設運営をお願いします。